

令和 7 年度学校自己評価

常葉大学附属菊川中学校・高等学校

令和 7 年度は常葉大学附属菊川中学校・高等学校の教育活動において、以下の点を重視した。

- (1) 応援文化の構築
- (2) 不易流行の見極め
- (3) 選択と集中

(1)では生徒間、教職員間、生徒教職員間、学校における多くの諸関係において、頑張っている人を励まし、困っている人がいたら助ける風土を作る。教職員間においては協働する喜びを分かち合える職場風土を作る。

(2)では建学の精神や教育の本質を守りつつ、前例にとらわれず社会情勢に合わせた教育内容や考え方を取り入れる。また変化を恐れない姿勢を持つ。

(3)では学校行事等について、継続するものと縮小廃止するものの判断をしていく。また限られた資源(人・時間・予算)で最大限の教育効果を発揮するよう努める。

上記内容の実践や課題を検証しつつ、今後もより良い教育の実践に努めていきたい。

番号	項 目	評 価
1	学習指導	3.5
1	授業で学んだ基礎知識を基にして多面的な思考力を養います。	3.7
2	ICT を授業の中で活用することで知的好奇心を育む授業を展開し、論理的な思考力を養います	3.5
3	探究学習において SDGs を学び、地域社会の課題を考え表現する力を養います。	3.4
<p>【実践報告】今年度のテーマは「多面的な思考力」「ICTの活用」「探究学習」の 3 つであった。 多面的な思考力は基礎的な知識や自ら学ぶ姿勢が根底に求められるが、各教科とも授業担当者同士が綿密に打ち合わせを行い、進度や内容を確認しつつ授業を進めることで基礎知識を養いつつ、確認テストやレポート課題、ディスカッション、班での発表などを行うことで自分以外の考えや意見に目を向けさせ、自己を見つめ直す工夫を行ってきた。 ICTの活用に関しては、Apple TVとライトニングケーブルの貸し出し回数が年間で 2000 回を超え、日常的にICTを使用した授業が展開されている。各教員がICT機器の有効な使い方を考えて使用しており、動画やニュース記事を活用することでリアリティを持たせる授業も見られた。 探究学習に関しては年々改良がなされ、今年度の 1 年生からはテキストを導入し、計画的な学習ができるようになった。高 1 では昨年同様にクラス代表が発表を行うこととなっている。</p> <p>【今後の課題】限られた単位数の中で、基礎力を養成する時間で精いっぱい科目も多く、授業の中で応用力や多面的な思考を養うことは時間的に難しいと思われ、授業の内容をもとにどのタイミングでどのような方法をつかって生徒に考える機会を与えるかといった今よりさらに綿密な年間計画が必要である。 ICT の使用に関しては効果的な使用方法やその効果に関する振り返りが必要であるが、授業アンケートなどでは拾いきれない部分があるため、授業担当者が振り返りシートや Classiアンケートを使用して、生徒の感想を確認する必要もあるように思う。 探究学習に関しては生徒自身が自発的に活動できる段階まで到達していないため、テーマの決め方や調査の方法などについて指導を深めていく必要がある。まずは生徒がオーソドックスな型にはまることで探究学習の目的や全体像を理解し、そのうえでさらなる意欲をもてるような教員のアドバイスのスキルアップが求められると考える。</p>		

2	中高一貫教育	3.5
1	基礎基本を重視した学習で一人ひとりの進路目標を達成させるよう努めます。	3.7
2	今までの取り組みを見直し、前例にこだわらない新しい6カ年教育の在り方を探ります。	3.3

【実践報告】

【実施したコース行事】(下線部が新たに実施した行事)

- ・新入生ガイダンス(4/11実施)
- ・一貫・文理キャンパス見学会(①6/30・②12/5実施)[①静岡大学・②早稲田大学(卒業生協力)]
- ・高一貫保護者会(7/17実施)[親子参加](来年度のクラス編成・文理選択についての講話)
- ・卒業生を囲んで(7/16に対面及びZoomで実施)
- ・中3・高1ビブリオバトルバトル(7/28実施)
- ・起業講演会〔株HONE・Astlocal(株)代表取締役 櫻井 貴斗 様〕(7/15に本校にて実施)
- ・起業講演会 ～ 実践編 ～〔株WE 代表取締役 戸田 裕昭 様〕(11/12に本校にて実施)
- ・古典を読む会〔元高校教師 鳥居 憲 様〕〔高2〕(7/22・23に本校にて実施)
- ・次世代リーダー育成講座〔袋井市議 鈴木 功三 様・八木 伸太郎 様・菊川市議 松永 晴香 様
浜松市議 大城 七瀬 様〕(7/24に本校にて実施)
- ・アントレプレナーシップ推進大使による特別授業〔北極しろくま堂(有) 取締役 園田 正世 様〕
(12/22に本校にて実施)
- ・夏期集中講座(8/19-21 7時間ずつ実施)
- ・京都大学学びのコーディネーター事業〔京都大学大学院生 山口 尚吾 様 出前授業「言語学とは？」〕
(12/10に本校にて実施)
- ・菊川市市政懇談会〔菊川市長 長谷川 寛彦 様 他〕〔高2〕(11/26に本校にて実施)
- ・一貫進路体験発表会
- ・朝学習(英単語・数学・古文単語・漢字 …… 他)
- ・一貫コース通信(毎月発行)
- ・ENAGEED【総合探究課題】(高1・2)

今年度より今後の一貫コースの在り方を見据えてヨコのつながりを強化すべく、キャンパス見学会を文理コースと共同開催した。また、例年一貫コース単独での実施としていた長期休暇中の補講を科・コースの垣根を撤廃してオープン補講として実施した。また、中・高のタテのつながりを意識した“ビブリオバトル”を今年も実施できた。どの企画も生徒たちにとって満足度の高いものとなったが、共催とすることで日程の設定や企画の準備期間に苦慮したり、独自の補講期間が設けられなかったりと課題も生まれた。それに代わって総合探究やLHRの時間を使って複数回にわたる講演会や出前授業、卒業生からの講話など、一貫独自の行事を多く行ってきた。昨年度より教科補講といったハードスキル醸成にかえて、『ENAGEED』や講座授業といったソフトスキル醸成(社会で有用な人材づくり)に重点を置いてきた。多くの外部講師を招いて、『ENAGEED』で学んだ「気づき」「発案し」「実行する」を実社会でどのように実践するのかの生のお話をいただいた。今後はこのことを基に、生徒たちが積極的に実際に表へ出て行動してくれればと考えている。

【今後の課題】 今までのような一貫コース2クラスを維持していくことは難しいと感じている。コース内や中高一貫のワーキンググループで議論を交わす中で、早急に高校進学と同時に外進生と混ぜるべきとの意見が多数を占めた。先輩や卒業生とのタテのつながりや、2組が実施してきた受験特化型のクラス形態を一貫コースがなくなった後も継承できればと考えている。一貫独自の補講、とりわけ外部講師を招いての探究活動については、各学年2クラスという一貫コースの小回りが利く環境でこそできたところがあるので、これらの活動を今後どのような形で引き継いでいけるかを学校全体で考えていけたらと思う。

3	常葉大学・常葉大学短期大学部との連携教育	3.5
1	LHR 活動やレポート作成を通じて、常葉大学および常葉大学短期大学部における学びを知る機会を増やします。	3.6
2	探究学習や LHR 活動において、常葉大学および常葉大学短期大学部と連携した各種講座を開設し、高大接続強化に努めます。	3.4
3	常葉大学への進学率向上(目標・在籍数に対し40%)に努めます。	3, 4

【実践報告】

高1対象

- ・常葉大学ガイダンス(全員)

高2対象

- ・短大保育科授業体験(草薙キャンパス 希望者)
- ・教養講座 (常葉大学に在籍している本校卒業生による講演 全員)
- ・「とこフェス@菊川」開催 (2月・普通コースを中心に、その他クラスは希望者)

高1・高2対象

- ・レポートの書き方講座 (動画視聴)
- ・高1・高2保護者対象 常葉大学附属高校入試ガイダンス(動画視聴)

教職員対象

- ・教員対象ガイダンス(大学・短大部の各学科教員と高校教員)

【今後の課題】・附属高校入試に向けて、動画視聴を通じて入試に関する情報を保護者に伝えるという方法は、良かったのではないかと。同様に、附属高校入試の魅力も感じていただけたのではないかと。11月の保護者対象進路ガイダンスで告知したことで、保護者の中で附属高校入試に対する認知度が高まったと感じた。来年度も実施していきたい。

・大学の先生方と生徒が直接触れ合う機会を持てたことは、たいへん有意義だった。来年度も大学の先生方との連携を図っていきたい。特に2月実施の「とこフェス」では、各学科の魅力をダイレクトに感じられるいい機会となったのではないかと。

・本校を卒業した学生による講演も、大学での学びの先にある将来像を感じさせる良い機会だと感じるので、来年度も引き続き実施していきたい。

・看護学科の先生から企画のコラボレーションを提案いただいたので、来年度の進路企画として実現していきたい。

4	進路指導	3.8
1	生徒一人ひとりに合わせたきめ細やかな進路指導と学習指導に努めます。	4.0
2	卒業生(学生・社会人)と連携したキャリア教育を行います。	3.6
3	国公立大学現役合格者 20 名以上を目指します。	3.7

【実践報告】高 1 対象

- ・Benesse 本校担当者によるスタディーサポートガイダンス(5 月、全員)
- ・リクルート まなび教育支援 Division 進路渉外部による進路講演(9 月・10 月・2月、全員)
- ・ベネッセ11月総合学力テスト・1月総合学力テストの振り返り講演(12月・3月、一貫・文理と希望者)
- ・志望校調べ(春課題・全員)

高 2 対象

- ・リクルート まなび教育支援 Division 進路渉外部による進路講演(6 月・2月、全員)
- ・親子対象共通テスト・一般選抜ガイダンス(8月、希望者)
- ・ベネッセ11月総合学力テスト・共通テスト模試の振り返り講演(12月・3月、一貫・文理と希望者)
- ・常短保育科授業体験(6月・希望者)
- ・志望校調べ(春課題・全員)

高 3 対象

- ・進路ガイダンス(全員)
- ・共通テスト対策補講(希望者)
- ・共通テスト・一般選抜ガイダンス
- ・クリスマス会(堀之内幼稚園・愛育保育園 音楽Ⅱ選択者)

高 1・高 2 対象

- ・分野別進路ガイダンス(合同)
- ・医療系分野聞き比べ講座(希望者)
- ・小論文ガイダンスと小論文・志望理由書ナビ(年1回・全員)

高 2・高 3 対象

- ・一日ナース体験(希望者)

全学年対象

- ・大学別比較検討ガイダンス(希望者)

保護者対象

- ・高3進路保護者会
- ・大学別比較検討ガイダンス(希望者)
- ・共通テスト・一般選抜ガイダンス(8 月・高2の希望する生徒と保護者)
- ・高1保護者対象進路ガイダンス(11 月)

教員対象

- ・スタディーサポート報告会(高 1～高 3、年1回)

【今後の課題】

- ・タブレット端末のさらなる有効活用を目指す。
- ・保護者へ進路に関する情報提供する場を、今年度は意識して実施した。昨今の受験は注意すべき点が多く、また受験動向の変化も激しい状況である。受験に対する正しい情報を、生徒・保護者に伝える機会の充実を今後も図っていく。また、教員対象の受験にかかわる情報提供の場も非常に重要である。最新の受験情報に触れるガイダンスや勉強会を企画していく。教科会議や科・コース会議等の「ミニ勉強会」も有効か。
- ・一般選抜や国公立大受験を希望している生徒や保護者へ、よりタイムリーに進路情報を提供し、最後まで粘り強く受験する生徒の後押しをしていく。
- ・来年度は Classi を利用して不定期でも「進路情報」を生徒・保護者に配信し、進路に関する情報共有の場を作っていきたい。
- ・模試受験後の振り返りとその後の学習に役立つような企画を、来年度も継続して実施していく。ガイダンス内容の精査、その後の学習計画や学習状況の把握は、今年度あまり充実していたとは言い難い。来年度は Classi をさらに活用して、生徒個々の状況把握や声掛け・面談にクラス担任が利用できるように整えていきたい。

5	生徒募集・広報活動	4.1
1	SNS を活用して学校説明会への参加を促す取り組みを行います。	4.2
2	高校の学校説明会では、映像等を駆使して生徒・保護者に本校の特色ある教育の内容を紹介します。	4.2
3	中学の学校説明会では、中高 6 力年の充実した一貫教育について、具体的に紹介します。	3.9
4	在校生や卒業生の力を借りながら、多くの方に本校の魅力を広めます。	4.1

【実践報告】今年度より広報課が独立して立ち上がり、私立学校運営の根幹につながる生徒募集において一定の成果を得られたのではないかと感じている。広報課の業務は学校説明会や個別相談会などが真っ先に思い浮かぶが、袋詰めの作業などの生徒の手を借りることもある業務もあり、それ以上に見えない部分の業務が多く存在していることを実感した。

今年度の新たな取り組みとして、部活動体験会や文理コース授業体験会、文化祭での高校紹介ブースや Instagram を用いた広報活動などを実施した。概ねどの取り組みも好印象であり、特に部活動体験会は大きな反響をいただいた。また、Instagram については現在フォロワーが 5000 人を突破し、在校生だけでなくその保護者や受験生にも教育活動が伝わり、今年度の単願受験生の増加の一因となったのではないかと推察している。いずれも新たな取り組みのため、今後ブラッシュアップが必要とされるので、少しでも多くの教職員の意見を反映できるように改善したい。

今年度の広報課は『より多くの方に本校の魅力を伝え、本校支援者を増やして受験生・入学者の増加へと結びつける』を方針として活動した。もちろん、学校説明会などの生徒募集関連行事において、先生方の生徒および保護者へ親切丁寧な対応が重要である。しかし、本校に在籍している生徒・保護者の満足度を高めることによって、本校への好意的な口コミを広めることも同様に重要となる。そのために必要なのが日々の授業や部活動などの教育活動となるため、広報課に限らず、全ての教職員が日々の教育活動に真摯に励むことが、生徒募集において最も重要ではないかと感じた。

【今後の課題】・成績上位者を含め、単願で受験する生徒が大幅に増加した。好ましい状況である一方、これが授業料無償化の影響なのかについて分析する必要がある。

→進路課と連携する、広報課内で分析班を立ち上げるなどして、成績(定期試験や外部模試)や進路先などを追跡することで成績上位の単願者を増やすことができるのではないかと。

・今年度が動き始めてからのスタートだったため、スピード感が求められる業務についてはどうしても個人で動いてしまうことが多かった。そのため、他の職員の業務について把握しづらいこともあった。

→組織としての『見える化』を進める。個人で行う業務とグループで行う業務を振り分ける。また、組織としての広報課業務を明確化し、共有することで見える化を図る。

・私学教員にとって生徒募集は学校運営にかかわる大きな課題である。特に少子化の進む現在の教育現場において、その重要性はますます大きくなっている。その中で 20 年先を見据えるためには、本校が所在地である静岡県中西部においてどのような存在であり続けるかについて、全教職員での検討が必要である。授業料無償化や公立併願制などが私学にとってどのような影響を与えるかについて今後も分析が求められる。依然公立高校が優位にある静岡県において、対公立高校として他の私学と連携しながらの生徒募集が必要となるかもしれない。今後も引き続き生徒募集の動向に敏感になり、情報収集に励む必要がある。

6	組織の活性化	3.9
1	学校全体に「応援文化」を構築します。頑張っている人を応援し、励ましあう校風を作ります。善行や入賞などを集会で発表し、ホームページでも公表します。	4.3
2	各科、コース、分掌が情報を共有し、問題点を多方面から検討します。そのために運営委員会、科コース会議、ワーキンググループを活性化させます。	3.6

【実践報告】

校内に設置されているモニターで活躍している生徒を紹介したり、集会等で善行賞の表彰をしたりする中で、全体で讃えあう雰囲気に着実に広がっている。校長講話の際にも応援することの大切さや困っている人がいたら手を差し伸べるなど、様々な事例を交えながら触れていることも大きく影響していると感じる。また、生徒の活動をホームページ上でできるだけホットなうちに公開することで、校内外に生徒の活躍が伝わり、紹介される側の行動面でのさらなる意欲喚起につながっているのではないかと思う。校内組織は従来の画一的なものではなく様々な意見が出やすいように構成されており、提案がしやすくなってきていることから、組織の活性化に一定程度つながっていると感じる。

【今後の課題】

本校では野球部をはじめ様々な部活動が活躍してくれており、学校全体の活性化につながっているので今後もしっかり応援していきたいし、善行も積極的に紹介していきたい。生徒間、教職員間、生徒教職員間に応援する気持ちがさらに広がっていけば、困っている人がいたら手を差し伸べるという行動も自然と増えてくるのではないかと思う。校内組織については限られた人数の中でやりくりしているのが事実であり、横断的な取り組みもあることから、負担増に注意しながら教員の学校生活の充実という点も意識したい。科・コースの取り組みもそれぞれが単独で行うのではなく、共有できるものは一緒に取り組むことで負担軽減につながっていくのではないかと思う。

7	教員の教育力強化	3.7
1	ICT 教育や新しい教育ツールの研修と活用に努めます。個々の教員のスキルを他の教員と共有し、教育力の向上を図ります。	3.4
2	生徒への授業アンケートを通して、授業の改善と向上を努めます。	3.7
3	教職員のモラル・コンプライアンス等の研修会を行い、生徒・保護者から信頼される学校づくりを行います。	4.0
<p>【実践報告】今年度のテーマは「ICTの活用」「授業アンケート」「モラル・コンプライアンス研修」の3つであった。学習指導の項目でも述べたが各教科とも授業担当者同士の綿密な打ち合わせを行いレポート課題、ディスカッション、班での発表などを行った。日常的にICT機器を使用した授業が展開されている。授業アンケートは各学期末に年3回行っており、授業改善に生かすよう実施の趣旨を説明している。生徒の回答はおおむね好意的なものが多いが、黒板の字の大きさや声の大きさ、課題についてなど細かな要望を行う生徒もおり、授業を見直す重要な材料となっている。コンプライアンス研修は1学期と2学期に行った。4月当初にはセルフチェックの用紙を提出しており、教員のコンプライアンス遵守の意識が保たれている。</p>		
<p>【今後の課題】学習指導の項目でも述べたが、ICTの活用に関しても、授業改善に関しても実践例や外部研修への参加を希望する教員の声があるので、外部の研修や研究授業の情報を積極的に紹介する必要がある。また、研修で得た知識を教科内で共有や紹介するために、教科内で自由に授業を見学しあえる雰囲気や機会を設ける必要がある。授業アンケートについては質問項目の検討やデータの分析、追跡まで行うことを要望する教員もおり、以前から授業改善が具体的にどのように実践されたかの検証をもとめる声があるが、千人を超える生徒の科目ごとの集計を行うこと自体が時間と労力が必要な作業であり、各教員に対する改善報告などを求めるまではできない状況である。新聞報道などがあるたびに校長から注意喚起がなされており、また学期ごとにコンプライアンス研修を行っているが、今後も継続していく必要がある。</p>		

8	行事、部活動、生徒指導	3.9
1	学校行事を通し、生徒の社会性の育成に努めます。	4.0
2	部活動は共通の目標に向かい切磋琢磨できる貴重な場所ととらえ指導にあたります。また、教育内容は生徒の能力や指向をよく見極め、コンプライアンスを意識しながら漸進的に進めていきます。	4.2
3	ボランティア活動への積極的な参加によって、地域社会に貢献する意識を高めます。	3.7
4	ルールやマナー違反、問題行動に対し毅然と臨むと同時に、現代の社会通念に沿った指導であることを意識していきます。	3.9

【実践報告】『考え、計画し、達成していく能力』を育てるため生徒会を中心に生徒自身に計画させ、進行させていく指導を心掛けた。『生徒が自治する学校』を目標に立て、委員会活動の活発化をはかった。生徒が考えて動く環境づくりを統一の目標として日々の教育活動を行った。

担任が単独で抱えるのではなく、クラス課題や生徒の悩みを共有するために支援会や学年会議、個別支援指導などを有効に活用することができた。SC、SSW の存在は大きく、養護教諭を中心に教育相談を充実させた。担任も教室内の生徒の活動をよくよく観察することで問題行動や生徒間のトラブルを未然に防いだ。その結果今年度は生徒指導が非常に少なかった。

生徒が主体的に行動する大きな教育活動として部活動がある。今年度も高体連主催の全国総合体育大会・全国選抜大会、スポーツ協会主催の国民スポーツ大会など多くの全国大会に出場することができた。また、国際大会に出場し、輝かしい成績を収める生徒を輩出した。部活動は結果至上主義にならないよう、生徒自身の成長が第一であることを統一目的にできた。今年後は特にリーダーシップがあり粘り強い生徒が多くなったと感じる。

今年度社会的な問題になった『暴行動画の拡散』は、あらためて教育現場に IT リテラシーの重要性を認識させた。生徒は物心ついた時にはインターネット環境が整っている。今後も継続的に指導していく必要がある。

【今後の課題】

生徒の問題行動には背景がある。生徒が抱えている悩みや不満が時として思いがけない行動を生むことがある。我々教員は生徒の表面的な部分を見るだけでなく、生徒の内なる声とも話をしていかなければならない。その為にも家庭との連携を密にし、学校の中だけではなく家庭の教育力に頼る部分も大きい。クラッシーなどを活用し、担任が家庭に直接コミュニケーションが取れる機会を増やしていきたい。

実践報告にも表記した通り、IT 関係は今後も大きな課題となっていく。SNS の取り扱いだけでなく、ネット上に写真を送るよう促すアプリやチャット GTP などの AI の利用など課題は多岐にわたる。便利になるのは良いことばかりでなく、思考力や判断力、探究力も損なう危険がある。これからはそれらツールを自分で選別し、目的にあった最適ツールを選択できるようになることも必要な能力である。

目まぐるしく変化する社会情勢の中で我々私学教育も大きな転換期を迎えつつある。先人からの教えを引き継ぎつつも時代にあった社会通念を伝えていく必要がある。変化が必要なものと普遍的なもの。私学教育こそその最善を求めなくていけない。制御と容認。見守りと後押し。一人の生徒に多くの大人が関わることで心身ともに成長できる環境を作り、社会や地域に貢献できる人材を育てていきたい。

9	保護者・卒業生・地域との連携	3.6
1	「みらい学」を通して、地域貢献に努めます。	3.6
2	PTA、同窓会、後援会との活動を在校生の教育を支える事業につなげます。	3.7
<p>【実践報告】「みらい学」は本校美術・デザイン科を中心とした活動であり、年間で様々な活動を行っている。4月にはジュニアアート教室を開催し、巨大アートづくりを行った。そこでは地域の子供たちとの交流を通してアートの良さを共有することができた。菊川市で行われる「茶畑の中心で愛を叫ぶ」では、代表生徒数名が会場装飾を担当した。その他、炭焼きレストラン「さわやか」さんからはホールユニホームのデザインの提案の依頼を受けたり、菊川駅の新駅舎完成を祝うイベント会場の装飾を依頼されたりと、様々な形で地域貢献に寄与している。また PTA をはじめ各種団体とは協力関係がしっくりと構築されているが、特に PTA の活動においては奉仕活動や研修旅行や文化祭での協力などを通して様々な形で教育活動の下支えをいただいている。</p>		
<p>【今後の課題】</p> <p>「みらい学」は地域を支える大切な役割を担っており、今後も継続して実施していきたい。生徒も地域に貢献している実感を持ちながら積極的に活動を行っている。このような活動がさらに認知され、本校に興味を持つ生徒がますます増えることを期待したい。一方で現在は本校の美術・デザイン科が中心となって活動しているが、普通科も含め地域の課題に目を向け、さらに貢献できる活動がないかを模索していきたい。校内では PTA をはじめとする各種団体との連携、校外では地域との連携を通して、地域に愛される学校づくりを進めていきたい。</p>		
		全体 3.8